オスマン帝国と

03 スルタン

イスラーム教の世界で、国を治める地位にいる人の呼び名のひとつ。オスマン帝国の軍事と政治の最高指導者のことをこう呼びました。

頭にターバンを巻いています

No.10
スルタン・オスマン2世騎馬図
ナクシー画
オスマン帝国時代
トプカプ宮殿博物館、イスタンブル
H.2169/13a

04 ターバン飾り

スルタンにとって、ターバン(頭に巻く帯状の布)とその飾りは権力と地位の表れでした。下の作品はターバンにつけた飾りのひとつです。こうしたターバン飾りの多くは金銀、宝石や鳥の羽で華やかに作られています。さらに、ターバンに固定させるために、小さなフックや輪がついています。

No.9
ソルグチュ
オスマン帝国時代
17世紀
トルコ・イスラーム美術博物館、イスタンブル、418

Türkiye と 日本

日本の約2倍

780,576 ㎢ ※1	alan 面積	377,975 ㎢ ※2
85,279,553 人 ※3	nüfus 人口	124,002,000 人 ※4
Ankara	başken 首都	東京
トルコ語	Dil 言語	日本語

Merhaba

こんにちは

Teşekkür ederim

ありがとう

トルコと日本の交流

トルコと日本の関係は、1890年、台風により遭難したオスマン帝国の船・エルトゥールル号を日本が助けたことにはじまりました。1924年にはトルコ共和国と日本の間で外交関係が樹立されました。2024年は、100年にわたる2国間の交流を記念する1年です。

※1　2024年、外務省のデータによる
※2　2024年、国土地理院のデータによる
※3　2022年、トルコ国家統計庁のデータによる
※4　2024年、総務省統計庁のデータによる

発行：出光美術館　2024年11月2日
協力：トルコ共和国大統領府国立宮殿局
トルコ共和国文化観光省
デザイン：大向デザイン事務所

日本・トルコ外交関係樹立
100周年記念

トプカプ宮殿博物館
出光美術館所蔵

名宝の競演

2024.11.2(土)―12.25(水)

鑑賞ガイド

トプカプ宮殿

623年も続いた広大な国！

01 オスマン帝国(1299～1922年)

15世紀にビザンツ帝国を滅ぼし、いまのイスタンブルを征服して首都としました。16世紀中ごろに最も栄え、アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大陸にまたがる広大な帝国になりました。多い時には人口は1,500万人に達していたといわれています。さまざまな地域の文化を取り入れ、独自の文化が発展しました。

右の人物に注目！

02 トプカプ宮殿

15世紀半ばにオスマン帝国のスルタン、メフメト2世によって建てられました。オスマン帝国のスルタンの住まいとして400年の間、政治や文化の中心でした。かつて城壁の門の前に大砲が設置されていたことから「トプ(大砲)カプ(門)サライ(宮殿)」と呼ばれるようになりました。

トルコ と 中国 と 日本

海を渡ったうつわの話

遠く離れた国々で作られたうつわですが、
交流を通じてお互いに影響を与えあっていました。
展示室をめぐって、それぞれの国の
うつわの特徴を感じてみてください。

第4章 色彩鮮やかなトルコのタイル・陶器

No.101　白釉多彩皿　オスマン帝国時代
イズニク　17世紀　出光美術館

トルコを含むイスラーム圏では、水差しは聖なる水を入れるものでした。食事で使うこの皿の中央には、大きく水差しが描かれています。それほどまでに水差しは、トルコの人々にとって親しまれたものだったのでしょう。

第1章 華やぐ宮殿の宝物

No.19　水差し　オスマン帝国時代　18世紀
トルコ・イスラーム美術博物館、イスタンブル、3977

東西をめぐる水差しの話

水を注ぐための水差し(水注)は、古くは西アジアで金属で作られました。それが中国へ伝わると、この形を中国独自に陶磁器で作り変え、さらには再びトルコなどへ逆輸入され大切にされました。
当時の技術では、トルコでは金属、中国では陶磁器で作ることを得意としていたため、お互いの技術を称え合ってくらしに取り入れました。

第2章 中国陶磁の名品

No.41　青花水注　中国　景徳鎮官窯
明　洪武時代 1368〜98年　出光美術館

第1章 華やぐ宮殿の宝物

トルコ と 中国

香炉は、オスマン帝国時代の宮殿や邸宅をはじめ、宗教的な儀式で使われました。この作品は、もともと椅子として製作された中国陶磁を、東屋(屋根と4本の柱でできた建物)を思わせる銀製の土台と枠にはめ込んでいます。このように、中国から輸出された陶磁器が、オスマン帝国の職人によって新たなものに作り変えられることもありました。

No.5　香炉
銀：オスマン帝国時代　17世紀　磁器：中国　明時代 16〜17世紀
トルコ・イスラーム美術博物館、イスタンブル、29

中国

中国の技術は日本に大きな影響を与えました！

トルコ

海を渡って運ばれたものもあります

日本

第3章 日本陶磁の名品

トルコ と 日本

このうつわは、スルタンが食事をするときに使っていたと考えられています。日本で作られた古伊万里のうつわが、トルコにたどり着いたあと、銀などの金属製の蓋と組み合わされました。このように、スルタンが安全に食事ができるよう工夫されました。

No.84　色絵高坏形蓋付鉢　日本　有田　古伊万里
江戸時代中期　18世紀　トプカプ宮殿博物館、イスタンブル、15j/18